

朝倉とともに 2018.7.14

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター

代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

第21号

埋め尽くす土砂に戦いを挑む

7月14日(土)30度を
超える真夏日の中、
筑紫郡那珂川町不入
道区の一部損壊住宅
で土砂崩れによる撤
去等の支援に入った。
防災士仲間13名が集
まり、被災者家族と
ともに汗を流した。



7月6日(土)夜8時20分頃、雷鳴かと思うほどの地鳴りとともに住居の裏山が崩れた。植林された樹木を含む土砂は一気に敷地内に流れ込み、浄化槽や井戸が設置している裏庭を埋め尽くし、さらに建て増した納屋の柱をなぎ倒しながら一階部分の半分まで堆積した。

水道が使えないため、飲料水や生活用水の提供を一週間続けてきたが、不自由な生活を一刻も早く抜け出したいと土砂搬出を担う業者と連携して浄化槽や井戸を掘りだす作業を優先して行うこととした。



九州北部豪雨で亡くなられた方々へ心からお見舞い申し上げます。また、被災された方々へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々へ早期の復旧・復興を祈念します。



朝9時過ぎから重機が使えない土砂上部や柱の周辺の土砂を撤去していく。重機2台は山と積まれた土砂をトラックに積んでいく。細かい部分は人力で連携しながら作業を進めた。

必要とされるボランティア

前日から作業を行っている業者から被災者の方へ要請されたのはボランティアであった。技術は高くないが作業をスムーズに進めるためには助手のような存在を必要としていた。



13名のボランティアは斜めになった柱を横目にひたすら土砂を掻き出ししていく。大きな木の根がスコップの行方を阻むとチェーンソーで切断しながら掘り進んでいく。

いつの間にか絶妙のコンビネーションで土砂の山が見る見る減っていった。業者の方から「めどが立った」と言われ、みんな汗まみれの顔が笑顔になった。

